

2023年5月20日

G7 広島サミット、核軍縮を前進させることに失敗

G7 首脳は、広島サミットの最終コミュニケを発表した。その中には「すべての人にとって安全が損なわれない形で、核兵器のない世界という究極の目標に向けて、軍縮・不拡散の努力を強化するための具体的な措置を講じている」とあるが、その措置とは何なのかには言及していない。なぜなら「具体的な措置を講じる」ことなどできないからだ。

昨日の核兵器に関する首脳討論は、過去 30 年間、核兵器をめぐる状況を進展させなかった構想や提案の焼き直しでしかなかった。新しい具体的な発表は何もなかったのである。G7 首脳たちは、G20 首脳や核兵器禁止条約締約国がこれまで表明したすべての核の威嚇に対する非難すらしなかった。その代わりに、ロシアと北朝鮮による威嚇を非難するのみに限定した。ロシアや北朝鮮を非難するのは正当なことである反面、G7 は、自らの核ドクトリンが核兵器使用の威嚇に基づいており、すべての人に深刻な危機をもたらしていることを認めていないのである。

5月19日に発表されたG7の詳細な声明「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」は、核軍縮のための有意義な成果を提供するには程遠いものであった。何カ月にも及ぶ準備と大きな期待にもかかわらず、首脳たちは、核兵器の脅威をなくして世界を安全にするための機会を逃した。核の脅威に対して、核兵器禁止条約のような具体的で信頼できる核軍縮プランをもって立ち向かうのではなく、核兵器によって最初に攻撃された都市、広島の恐怖にさえほとんど触れようともしていないのである。

声明は、原爆が投下された広島・長崎の人々が経験した未曾有の惨状と非人道的な苦痛を思いおこし、「核兵器のない世界」を実現するというG7首脳の決意を再確認している。しかし、その目標に向けた具体的な対策を約束することはせず、核兵器を使用する権利を持ち続けることの重要性さえ強調している。G7は、何十年も前の不十分な取り組みを新しい「ビジョン」として売り込もうとしている。それはまた同時に、自らが核リスクの増大に加担し、国家安全保障政策の正当な形として民間人の大量殺戮を推進してもいるのである。

ICANのダニエル・ホグスタ暫定事務局長はこの声明に対し、次のように述べた。「機会を逸しただけではない。広島と長崎に原爆が投下されて以来、初めて核兵器が使用されるかもしれないという深刻なリスクに世界が直面している今、これは世界の指導者たちの重大な失敗である。ロシアや中国を非難するだけでは不十分である。核兵器を保有もしくは設置、ないしは核使用を是認しているG7諸国こそが、核兵器のない世界という公言する目標を達成するために、一步踏み出して、他の核保有国を巻き込んだ軍縮協議を始めなくてはならない。」

到底容認できないロシアによる核の威嚇がなされるなかで、G7首脳は、核の威嚇すべて

を明確に非難した昨年の G20 首脳宣言の文言を事実上後退させ、グループ内の核武装国を守るような曖昧な表現を用いることで、進歩的で信頼に足る対応をすることを逸した。

「この関連で、我々は、ロシアのウクライナ侵略の文脈における、ロシアによる核兵器の使用の威嚇、ましてやロシアによる核兵器のいかなる使用も許されないとの我々の立場を改めて表明する。」これは、いかなる国によるものであれ、あらゆる核の威嚇が許されないという認識から一步後退したものである。

声明はまた、透明性の重要性にも言及している。これもまた、G7 内の国こそが自国を振り返るべきことである。例えば 2021 年、英国は、保有核兵器に関する透明性を低下させると決定したのである。

被爆者の呼びかけに耳を傾けず

声明は、核兵器がもたらす人道上的影響をしっかりと受け止めることをせず、また何よりも、核兵器廃絶のための真の行動を求める被爆者の要求に応えていない。今日の緊急性と重要性に鑑みて立ち上がることをしなかった G7 の不作為は、被爆者と広島で亡くなった人々とその記憶に対する侮辱である。

ダニエル・ホグスタのツイート：

被爆者であり活動家でもある佐久間邦彦氏は、G7 首脳たちに、「人道上的影響について学んだことを自国の市民と共有してください。この広島訪問を、核兵器の保有継続を正当化するために利用しないでください」と求めています。

G7 初日の午前中、G7 首脳は平和記念資料館で 30 分弱過ごしたとされ、慰霊碑に花輪を捧げた。また、被爆者とも短時間面会した。だがこの声明は、首脳たちが実際には被爆者が何を求めているのか聞く耳をもっていなかったことを示している。彼らは、核兵器のリスクや人道上的影響を無視し、核兵器がもたらすリスクに加担し続けるつもりなのだ。

被爆者で広島被爆者団体連絡協議会事務局長の田中聰司氏は、次のように述べている。

「これは、被爆者が求めている真の核廃絶への道ではなく、彼らの責任逃れです。岸田首相は『核兵器禁止条約は核兵器のない世界への出口だ』と言っています。しかし、核兵器禁止条約は、出口ではなく、入口です。岸田首相をはじめとする G7 首脳は、核兵器禁止条約を受け入れ、核兵器廃絶のための真のプロセスを開始すべきです。」

核兵器は国際法上、違法である

G7 が核の脅威に真剣に対処しているを示す次の機会は、核兵器禁止条約の次回締約国会議である。責任ある国家はここに集まり、世界的な核軍縮の計画を実行に移すべきである。

https://www.icanw.org/g7_hiroshima_summit_fails_to_deliver_progress_on_nuclear_disarmament